

## Mi tercer sitio, Argentina

### Mayo cordobesa

¡Hola! 少し前まで寒暖差の大きい日々が続いていましたが、いよいよ本格的に寒くなってきましたね。皆さまお変わりありませんか？

今回お届けする内容は、児童養護施設での農作業と、子供たちとの折り紙による交流です。それでは、しばしお付き合いくださいませ。

#### 1. 家族と暮らせることは、決して当たり前ではないということ

児童養護施設、「Eva Perón」へ初めて行った日は農業指導のボランティアが来ていて、私も一緒に花壇の土を掘り起こして石を取ったり、プラスチックの小さなポットに入っている苗を植え付けたりするお手伝いをしました。

花壇は円形なので、「縁に沿って丸く植えよう」ということになったのですが、一人の男の子が、「これはパパ、これはママ、これは弟、そしてこれが僕。」と言いながら、4つの苗を固めて植え始めたのです。

・・・私は、まさに“雷に打たれたような”衝撃を受けました。

そして、「〇〇（←彼の名前）、違うよ。この縁に沿って、少し間を空けて植えるんだ。」と言われた彼は、「いやだ！これは僕の家族なんだ！みんなで一緒にいるんだ！」と激しく反抗したのです。「そこに4つ固めて植えると苗が足りなくなるからダメだ。」と言われ、施設の職員からも「言うことを聞きなさい。」と注意されると、「どうして家族なのに一緒にいられないんだ！」と泣いてしまいました。

彼がどのような事情でここに預けられているのか、私にはわかりません。でも、大好きなパパとママ、仲良しの弟がいるのに一緒に暮らせないという事実。まだ8歳なのに、家族と離れて暮らさなければいけないという事実。花壇にお花を植えるときでさえ、苗を家族に見立ててせめて一緒にいたいと願うその姿。可哀想とかつらいとか、そんな単純ではない気持ちたちがブワァーっと湧き上がってきてしまいました。“家族で生活する”ということについて特に何も考える必要もないほど当たり前生きてきて、（そうか、当たり前じゃないんだ。）ということに気付かされて・・・ものすごく簡単に言うと「つらかった」ということになるのですが、あのときの気持ちを的確に表現できる言葉は見当たりません。

ボランティア活動を始めて数分でこのような体験をしたことに少し動揺はしましたが、子供たちもみんな頑張っているんだし、私がいちいちメソメソしているわけにはいかないし、第一、そんな状態ではみんなに失礼なので、（気持ちを強く持って活動しなければ！）と思いました。



写真：とってもきれいな花壇に仕上がりました！

## 2. ORIGAMI は世界をつなぐ

淋しい話になってしまいましたので、明るい思い出もご紹介しましょう。前号でも少し触れましたが、活動にあたっては「これをやってください」ということは一切言われず、自分で考えて行動しなければなりません。このことは日本での準備段階から言われていましたので、私は折り紙を持って行くことにしました。

子供たちに折り紙を見せて、知っているかを聞くと、「ORIGAMI!!」とすごく喜んでくれました。アルゼンチンでも文房具屋さんで買えるのだそうです。とりあえず鶴を折ると、「何でそんなことが出来るの?」「日本人はみんな折れるの?」「どこで習うの?いつ覚えたの?」と、子供たちだけではなくて職員の皆さんも目を丸くして興味津々でした。

教えて!教えて!と、みんなイキイキとした目で真剣に取り組んでいましたが、「Mayoみたいにきれいに折れない」というのが大人も子供も共通の悩み?でした。「きれいに折るためには、紙の端と端、角と角をきちんと合わせて折るんだよ。」と教えたのですが、なかなかそれが出来ないものなんですね。それでも、隙間だらけの不格好な鶴を初めて折り上げて大喜びしている様子がとてもかわいかったです。そのうち、きれいに折るコツをつかんだ子も出てきました。

動物や昆虫の折り方の本を持って行ったので、それを見ながら子供たちのリクエストに応じてブタやトンボ、コウモリなど、私も生まれて初めてのものをいろいろ折りました。私は決して器用ではなく、むしろ不器用な方なので非常にプレッシャーがかかりましたが(笑)。1枚の紙を折っていくことで立体的な形に変わる過程がみんなの興味を引いていました。

大人気だったのが“小物入れ”と“パクパク”です。好きな色の折り紙を持って「僕にも

作って！」と私の前に押し寄せ、「俺が先だ！」など小競り合いが起こるほどでした。学校から帰って来ると「Mayo, Origami！」と催促される日々が一週間ほど続きました。実は、折り紙がこれほどまでに心をつかむとは思っていなかったのがびっくりしましたし、これからのためにもレパトリーを広げておこうと思いました。まだ全くできていません・・・。



写真：  
子供も大人も興味津々。  
みんな楽しそう。



写真：  
私の”力作”の一部。  
手前が、大人気だった小物入れと  
パクパクです。

今回も最後までお読みくださりましてありがとうございました。お身体に気を付けて、どうぞ良いお年をお迎えくださいませ。来年もよろしく願いいたします！

¡Feliz Navidad y próspero Año Nuevo!